

トランプ勝利の選挙結果に関するインタビュー

国務長官の元参謀長の退役陸軍大佐ローレンス・ウィルカーソンとアナリス・ニュースのポール・ジェイの対談

The Analysis.news、2024年11月7日、脇浜義明訳、田中一弘補訳 *脚注は訳注

ジェイ：ラリー・ウィルカーソンと大統領選挙結果とそれがもたらすものについて、話し合います。それは、過去へと回帰する未来という新しい時代の始まりです。本日はありがとう、ラリー。

ウィルカーソン：アナリス・ニュースへのお招き、ありがとう、ジェイ。ところで僕の小切手は受け取った？

ジェイ：いいえ、まだです。

ウィルカーソン：10日ほど前に郵送したので、もう届いているはずです。

ジェイ：そうですか、ありがとう。寄付してくれる人がいるということは素晴らしいことです。

それでは早速話に入りましょう。私は民主党指導部のひどい選挙運動にたまがています。選挙結果を見て言っているのではなく、選挙期間中ずっと私が言っていたことです。カマラ・ハリスは重要な問題、特に大切な経済問題に関する国民の質問に、率直に答えませんでした。彼女は、インフレーションが収まりつつあるのに、何故生活費、とりわけ食物、家賃、その他の生活必需品の価格が下がらないのかという疑問に答えませんでした。何故そういう現象が起きているのか、自分が大統領になったらそれに対してどうするのかを言いませんでした。企業による価格つり上げがあるとされていますが、彼女をそれを取り上げ、それを止めるとは言いませんでした。値上げ問題にほとんど振れないまま選挙戦を終えました。

絶対語るべきだった重要問題、米国も世界もが直面している生存の危機、つまり気候変動問題と核戦争の脅威については、ほとんど一言の言及もなかった。事実問題として、それを語ったのはトランプの方で、弾道ミサイル迎撃システムとして米国版アイアンドームを作ると吹聴しました。経済、気候、核戦争についてあなたの意見を聞きたいのですが、まず選挙結果に対するあなたの考えを聞かせてください。

ウィルカーソン：正直言ってびっくりしました。世論調査を見ていなかったからではなく、ちゃんと観察した結果、びっくりしたのです。もう世論調査を信頼できなくなりましたよ。あまりにも表面的な目先の利益に人々が踊らされたのです。こんなにもたくさんの米国民が自国を不満に思い、自分の周辺で起きていることに不満を抱いて、たとえ明白にベテニシタと分かっている狂気の政府批判候補者にでも投票したという事実、びっくりしたのです。最もびっくりしたのは、得票差の大きさです。疑問の余地なく、裁判とか論争が起きる余地がないほど、はっきりした勝敗です。トランプが選挙人団でも投票数のうえでも勝ちました。それは私にとって大きなショックです。

前の政権下で米国が問題を抱えていることは分かっていました。大きな国内問題があり、それが外交政策に影響を与え、その外交政策が国内問題に転化していることも知っていました。双方が悪循環として絡み合っているのです。これまで何度も言ったように、帝国が揺らぎ、国際社会からの非難の的、帝国の終焉になる空気がありました。まさか国民がトランプをもう一度大統領に選ぶとは思っていませんでした。ところが、選んだのです。

ジェイ：前のバイデン選挙のとき、左派のサンダースが民主党予備選挙で善戦したため、バイデンはサンダースを入れたプラットフォーム委員会、つまり作業グループを作り、中道左派の選挙運動をやったのです。やや中道左派めいた選挙運動のおかげで、トランプに勝ちました。ハリス選挙本部は左派を嫌い、ただ共和党票や中道右派票を減らすことを重点的戦略として行い、気候問題にはほとんど振れませんでした。経済問題に関する質問には口先だけの答弁で、すぐに無関心さが見抜かれました。あなたはこれをどう思いますか。人々が直面している危機的状況に立ち向かう勇気がないことを証明するような選挙運動だったと、私は思うのですが。

ウィルカーソン：私は個人的にもバイデンを知っているので、彼が老いによってますます意地悪く、意固地な考え方をするようになったことを知っています。たぶん、彼はハリスの敗北を、それ見たことかと喜んでいでしょう。選挙結果に対する彼の最初の反応は「おお、何てことをしてしまったんだ (Oh, God, what did we do?)」でした。それは、たぶん、「私が候補者のままだったら、こんなことにはならなかったであろう」という考えを表現する言葉だったのでしょうか。ちょっと探せば、それを証明する証拠が見つかるでしょう。しかし、まあ、この言葉をハリスやトランプや政党や政治的駆け引きに関するコメントというより、米国、つまり帝国が行き着いた現状に関するコメントと解釈しましょう。もっとも、その現状を作り出したのはバイデンたちなのですが。

ポール：あなたの言う通り、我々は経済的にも財政的にも文化的にも大変な危機の中にいます。我々は内政面でも外交政策面でも破綻するかもしれない瀬戸際に立っています。それがわが国に対する処方箋です。我々は英国人のようにできません。大英帝国崩壊後70年かけて、まだ後遺症でガタピシしながらも、何とか普通の国として蘇った英国のようなわけにはいきません。我々の場合は破綻の道を駆け下るだけです。完全に破綻する帝国です。私はその徴候、もはや米国の帝国が終わったことを告げる徴候を見えています。

歴史には同じような富と同じような規模と力を持った帝国が、腐食の兆しが見え始めてからも100年間も持ちこたえた例がありますが、米国はそんなに長くもたないと思います。内部の腐食のためばかりでなく、外部の反米勢力が強くなるためです。米国の無茶苦茶な対外政策が反米勢力を強く、多く、深くしているのです。米国の崩壊はある日突然にやってきて、国民にトラウマを植え付け、国家を非常に不安定にするでしょう。

ジェイ：基底の構造的問題は過去数十年間で米国に信じ難いほど多くの富が集中したことです。今回の選挙の特徴は、過去の選挙以上に、その富を集中的に所有している億万長者の参加があったことです。

ウィルカーソン：あなたがその話を終えないうちに言いますが、富が私たちの味方をする必要はありません。

ジェイ：億万長者が公然と選挙に参加したことです。イーロン・マスクやピーター・ティールのように、特に共和党側につきました。もちろん、民主党の側にも億万長者がいます。億万長者階級は誰を大統領にするか—正確には誰を王にするか、誰を新皇帝にするかを争いました。古代ローマでも金持ちがネロを皇帝に選んだと、どこかの本で読んだことがあります。現代の金持ちが選んだ皇帝は地球が燃えているときにバイオリンを弾く人物です¹。億万長者たちは自分たちが現世から離れた宇宙か空想の世界に住んでいると思ったのでしょう。ピーター・ティールや極右キリスト教徒は神のお告げの仕事として、ユダヤ・キリスト教文明を守る新十字軍を形成し、マスクは火星で新文明を始めるつもりです。要するに彼らは狂気の空想世界に住んでいるのです。だから、気候問題とか核戦争の脅威などの最も大切な問題は話題にもならないのです。

ウィルカーソン：私は一年前から、人の助けを得て、気候危機に関する資料を収集し始めました。ハリケーンや竜巻や豪雨などについての記事や論文を収集しました。科学雑誌、ニューヨーク・タイムズ、ワシントンポスト等々からの論文や記事で、もう1000点以上になります。それらのヘッドラインを見直すと、地球工学などの用語が目立ちます。億万長者らの融資でそういう馬鹿げたことが、うっかりか意図的かは分かりませんが、新聞雑誌を賑わしています。これは、気候危機と同じように、危険ですね。

カリフォルニアで異常気象が発生したらロサンゼルス・タイムズが取り上げるでしょう。東海岸で発生したらニューヨーク・タイムズが取り上げるでしょう。異常気象が国家安全を脅かす規模になったら気候安全保障ワーキンググループが取り上げるでしょう。でも、誰も本気でそれを心配していません。それを大問題として位置づけ、「周囲で起きていることを見てごらんささい。我々人類が大変な危機にいることを裏付けているだけでなく、何の役に立たない「科学的方法論」に多額の金を注ぎ込んで自分の金ばかりか人々の時間と安全を浪費している金持ちどのものやっていることは危険だ」と言う人は少ないですね。私の収集したリストを見ればびっくりしますよ。

ジェイ：マスクなどの億万長者は堂々とトランプのための選挙運動をやり資金支援しました。一方ハリスの方が、大口ドナー、つまり億万長者を怒らせないように選挙運動を調節したことも明らかです。ガザに関するハリスの考えの説明もありませんでした。民主党初のパレスチナ系女性議員のラシア・タリーブを民主党大会で発言させなかった。選挙運動中もハリスはタリーブに応援演説させなかった。そんなことをしたら、親イスラエル派の億万長者を怒らせるからだ。それに気候問題に振れるのも億万長者の機嫌を損なう恐れがあった。

ハリス陣営は化石燃料大企業を怒らせることを恐れました。ペンシルベニア州ではハリスは天然ガスや原油のフラッキングを支持する演説をしました。フラッキングを望んでいるのはペンシルベニア州の約半分の人ですが、その人たちに迎合するとしても、もっと他のやり方があったはずです。せめて労働組合運動が開発してILOも支持している公正な移行(Just Transition)²に言及して、「人類と生物と文明を守るためには化石燃料と決別しなければなりません。もしかしたらあなたたちは原油のフラッキングをするかもしれませんが。」と明確に主張し、「あなた方だけがツケを支払う必要はないのです。これまで国全体が化石燃料の恩恵を受けてきました。だから、化石燃料脱却

¹ ローマが燃えているときネロはバイオリンを弾いていたという故事がある。

² 気候変動と戦いと生物多様性を保護する持続可能な清算に移行する場合に、労働者の生活と権利を確保するために必要な様々な社会的介入を行う。

の場合、国全体がペンシルベニアの人々、あるいは化石燃料に依存してきた他の州の人々、持続可能エネルギーに移行するまでの間支援しなければなりません」と言えばよかったです。そういう議論はしなかったし、そういう議論をハリス陣営は知らなかったというわけではないでしょう。

ウィルカーソン：私が 10 年間収集したデータの主要な特徴をあなたは述べました。これはアンガス・キングのような独立派の議員の中にも見られます。彼らは議会は二大政党が牛耳っていて、億万長者が金を出す AIPAC（アメリカ・イスラエル公共問題委員会）などの強力なロビー団体があるので、自分たちが難しい問題に取り組むことが出来ないと思い、取り組む意図もありません。勇気がないのです。臆病な議会勢力です。テッド・クルーズ（共和党）、リンゼイ・グラム（共和党）、他にルイジアナ選出のあの議員、そしてケネディなど、スマートに振る舞う議員がいます。地球の崩壊を怖がっている振りをしますが、しかし、その問題に真剣に取り組むことをしません。企業を怒らせたくないからです。彼らの立場がネガティブな意味を持つことになるからです。

ジェイ：何故民主党指導部をけなすのかと問われるかもしれない。理由は二つあります。一つは、私が過去数か月間ずっと言ってきたこと、私がアナリシス・ニュースの「トランプのとんでもない同盟者」で言ったことです。私はトランプとイーロン・マスクなどを批判すると同時に民主党指導部も批判しました。今後 4 年間はトランプ批判が中心となるでしょうが、民主党指導部をハリスを担いだ人びと、そしてハリス自身をも批判するでしょう。ハリスは何かマーケティング会社が用意した台本通りに行動しただけのように思えます。

ウィルカーソン：たぶんそれが真実に近いでしょう。

ジェイ：ええ、彼女は自分なりの話し方をしましたが、台本に沿った内容でした。何しろ統制された人で、誰が何を要求しても彼女なりのやり方でしゃべります。物価高について質問されると、自分が労働者階級で育ったことを話します。まったく意味のない答えです。私がこれを強調するのは、これからトランプ政権下で暗い危険な時代になりますが、左派、進歩派の人々がトランプの勝利はいいことだと思っているからです。トランプ勝利を喜ぶのはともかく、民主党指導部が信頼を失い、弱体化しているのは、一つのチャンスになります。そのことに何か希望の光があれば、何もトランプ政権の危険を軽く見ているわけではありませんが、進歩派が広くまとまって民主戦線を築けば、トランプが共和党をまとめあげたように、民主党をまとめるチャンスになるでしょう。まず、市やら州レベルなど地域からその運動を始めるべきでしょう。指導部は今やそれを弾圧する力もありません。

私はアダム・マケイの映画『華麗なる大逆転』（The Big Short）を見ました。彼は民主党に見切りをつけたと言っています。緑の党に入るか話し合ってみると言っています。緑の党への鞍替えはともかく、民主党指導部が弱体化した今こそチャンスです。あの予備選挙で支配力をふるった右派民主党員、化石燃料企業の政治献金欲しさに気候問題をないがしろにし、ユダヤ系資本家の献金欲しさにガザで正しい決断をできない連中を追い出せるチャンスです。彼らの選挙運動がハリスに語るべき大切なことを奪い、ただ笑顔だけを、いつもあいそよくニコニコ顔だけを演じ続けさせたのです。今ではもう誰もニコニコできなくなったと思います。

ウィルカーソン：あなたは現実的で理に適った方法論を述べましたね。気候変動に関しては、ほぼ 10 年前にテキサス選出の上院議員から皮肉を言われたことがあります。ジョニ・アーンストというアイオワ州選出の上院議員は以前に私の話を聞いたことがあり、必ずしも私と同じ陣営ではなかったのですが、彼女の国家安全保障に関する会に私を講師として呼んでくれたときでした。テキサス選出の議員は私の気候変動危機の話聞いた後で、「ウォール街が 16 フィート海面下になったら、皆さんは反応するでしょう。それまでは特に動く必要はないでしょう」と皮肉を込めて言いましたので、私は、気候変動は米国だけでなく世界中で海面上昇を招いているので、ウォール街が 16 フィート沈むことは十分あります、と言い返しました。議員はだめでも、軍隊はそのことをよく知っています。軍は異常気象を予測し、新兵器開発予算よりも、災害対策予算を増やせと主張しています。災害は頻繁になったら選挙民も水の底に沈むのだから、そういう予算に反対しないでしょう。あなたや私が提案する政策に敵対しなくなるでしょう。

ジェイ：何故選挙民はそうしなかったのですか。トランプは銃撃を自慢して、「神が救ってくれた。銃弾は耳を貸すただけだ。神からメッセージだ」と言いました。では、フロリダ州を襲ったハリケーンをどう見るだろう。フロリダ・ハリケーンこそ気候危機だと宣言すべき時期だったのに。

ウィルカーソン：単なる悪天候が続いているだけと言う人が多いんです。過去にも悪天候が続いた時期がありました。しかし、毎日、今日も明日も、異常気象が続き、ますます悪化しているのです。データも見ればすぐ分かる

ことです。私たちは気温上昇が今世紀半ばまでに3.5度になると予測していますが、そうなるともう取り返しがつかなくなります。人類や生物の生存が困難となります。そういう事態に近づきつつあるのです。

ジェイ：パリ協定でみんなで阻止することを決めた1.5度はもうとっくに超えています。そのうえ大国の大統領に気候温暖化否定論者がなったのです。

ウィルカーソン：そのうえ、化石燃料愛好者です。

ジェイ：ええ、選挙演説で、「どんどん、掘って掘りまくれ」と言いました。

ウィルカーソン：あのテキサス議員の言った言葉を思い出してください。実際には16フィートどころか、ウォール街は28フィート海面下になり、それを回復させる手立てがないのです。回復不能が現実のものか推測上だけのものかという議論はどうでもよいことです。米国民は異常気象で取り乱し、互いをけん制し合い、けんか腰になるでしょう。昨日オクラホマ州で州を壊滅させるような竜巻があったと一人が言うと、相手はオレゴン州もひどかった、あるいはワシントン州も災害があったと言い返し、このような論争が国中に巻き起こります。誰かが何とか手を打てという議論になります。

私と仲間は今いろいろな能力をもつ人々のデータベースを作成しています。環境疫病専門家、救急医療者、水質研究者、食料研究者、被害対策専門家、難民法弁護士、難民キャンプ設営熟練者など、様々なスキルを持つ人々をデータ化しているのです。それはあのニューディールでフランクリン・D・ルーズベルトが集めた民間保安隊（FDRs CCC）と同じような気候危機保安隊をつくるためです。1000万人から1500万人の人材を登録（徴兵）させて、防火やら洪水対策を指揮・指導できる体制をつくるつもりです。

荒唐無稽な計画と思われるかもしれませんが、1941年にルーズベルトは1億4000万人を集めました。私たちのデータベースにはすでに1200万人が集まっています。米国の人口規模から見れば大した数ではありませんが、これらの人々が気候変動対策保安隊を構成し、災害に立ち向かうのです。外国へは出ません。国内の災害に専門的スキルを行使して、火事や洪水などと戦うのです。

難民キャンプ運営については、私たちのシミュレーションでは、2050年から2060年あたりに南部国境線で10万人を超える規模となり、やがて人々が難民キャンプ運営にうんざりするようになります。国境に軍を配置して難民を射殺するようになります。これは最悪のシナリオですが、その可能性が十分あります。そうなるともう引き返すことが出来ない危険地点で、それに対する対抗策がありません。人々は通りで争う大混乱が到来します。私たちは人々の理解力を高める努力をしていますが、40代以下の人々がこの問題を国家安全保障問題であると理解しています。

仮に核兵器問題で決定的な策を立てなくても、気候変動が人類を滅ぼすでしょう。例えばABM条約にまつわる狂気についてですが、・・・

ジェイ：もうそんな条約はないです³。

ウィルカーソン：ええ、出来れば条約が存続してほしかった。最後の望みだったのですから。MITのテッド・ポストール教授はそのことをずっと話して、政府を非難しました。今では「マーズ」弾頭（MIRV）⁴が発達して、大統領に先制攻撃の力と、敵軍から反撃の力を削ぐ力を提供した。これが、イスラエルの馬鹿げたアイアン・ドームと同じように、防衛の盾になるとしているんです。

ジェイ：馬鹿げていると思います。空から大量に振ってくるICBMを止める防衛の盾なんかありません。

ウィルカーソン：そのとおり。イスラエルはそれを身をもって体験しています。

ジェイ：ええ、

ウィルカーソン：結局真実は必ず分かるものです。

ジェイ：イスラエルのアイアンドームは、多少上下はするものの概ねまっすぐ手飛んでくる弾道ミサイルに対処するもので、大陸間弾道ミサイルは撃墜できません。

ウィルカーソン：時速33,000キロメートルで飛来しているICBMは撃墜できません。

³ 米国は2002年6月に正式脱退した。

⁴ ひとつの誘導ミサイルに複数の核弾頭を装備し、それぞれ違う標的を攻撃するミシステム。

ジェイ：ICBMは何千基ものデコイを伴って飛んでくるので、とても防衛の盾になりません。トランプのアイランドームで一つだけはっきりしているのは、イーロン・マスクやピーター・ティールのような億万長者が、この無意味な大事業で金儲けすることです。

ウィルカーソン：まさにロッキードマーティン社がTHAADミサイルやその他の現存の防衛の盾装備などで大儲けをしたのと同じです。10発中1発しか命中しない高価な兵器システムを韓国やサウジアラビアや湾岸諸国に売って、大金を稼ぎました。

ジェイ：すべてには基軸的戦略があるようです。共和党だけでなく、億万長者や民主党指導部もそうですが、やはりトランプ共和党に飛びぬけて顕著です。何事も中国に勝つことから始まり、中国に勝つことで終わるのです。軍事演習は化石燃料会社を喜ばすだけでなく、常に戦略的に中国の上に立とうとするのです。気候に関するまともな計画があれば中国と協力するというのはまったくデマで、中国と協力なんかしません。トランプのアメリカは世界的ヘゲモニーを再確立したいのです。それは成功する見込みがないのに、それを目指しているのです。

ウィルカーソン：こんなばかばかしい軍拡競争にストップをかけ、恐るべき核兵器にもう少し分別のある対応としての核兵器削減条約体制にとっても、トランプの態度は、大きなマイナスであり、致命的問題です。現在人類が直面している大きな問題、気候変動と核兵器に関しても、協力と協働が必要なのです。敵意なんかは論外です。経済的に戦略的競争をやるのはいいですが、気候変動と核兵器に関して敵意で対処することは出来ません。なぜなら気候危機も核危機も米国にとっても中国にとっても大問題なのです。

ぞっとする話を聞きました。米国は今や日産2200万バレル生産しているそうです。これはロシアと中国の生産量を合わせた量より多い。ひょっとしたら米国政府はイスラエルにペルシャ湾油田攻撃のゴーサインを出すつもりなのかもしれません。ガザ、レバノン中東へと拡大する戦争にケリをつけさせるためにイランを攻撃させるかもしれないと思うのです。サウジアラビアのムハンマド・ビン・サルマン皇太子（MBS。サウジの事実上の支配者）の国家安全保障顧問サアド・ビン・ムハンマド・アル・アイバンが米国へ来て、防衛条約を話し合ったというアキシオスの報道があったが、サウジはそのことを察して米国と二国間防衛協定を結ぼうとしたのかどうか。私にはわかりません⁵。もともとはイスラエルを含む大国間協定を結びたかったのでしょうか、MBSは消えゆく前のバイデン政権との間でサウジ防衛のための二国間協定を結びました。米国は、カタール、バーレーン、湾岸諸国との二国間協定を結んでいます⁶。

こういう二国間協定を進める中でGCC（湾岸協力会議）のことを完全に無視しています。数日前に、サウジの国家安全保障顧問と話し合った米国の国家安全保障顧問ジェイク・サリバンはそういうことも話し合ったのでしょうか。イスラエルが湾岸原油生産施設を攻撃したとなれば、サウジだってイランの反撃を受けるでしょう。まあ、そのことは、しばらく放ってきましょう。

興味深いニュースがあります。2009年私は北京で戦争ゲーム、シュミレーションをやりました。日本やその他世界の国々が消費する石油の20%がホルムズ海峡を通りますが、それがストップするとどうなるか。一晩で原油価格が1バレル300ドルに跳ね上がり、保健会社は保険契約を拒否し、海運会社が原油輸送を断る事態を想定しました。米国は海軍戦力の半分を湾岸へ送り込みました。数週間の努力の結果原油価格高騰は収まりましたが、完全に安定したわけではありません。価格は大体1バレル170ドルあたりをうろうろしています。

戦争ゲームに参加したのは中国の専門家、日本の専門家、韓国の専門家、ロンドンの保険業者組合のロイズ、米国連邦海事委員会でした。私たちは市場を鎮静化させ、保健会社や海運会社を安心させようと、国際協力に基づいて原油運搬ルートをあちらこちらに移動させました、韓国へはアラスカの石油を輸出し、韓国の他の品物を日本へ、日本の品物を韓国へ輸出するなど、モノの流れの安定を図りました。エネルギーやモノをいじくり回しました。いじくり回したというより、世界のエネルギー供給網を再配分して、戦争から生じた危機に対処しようとしたのです。危機は非常に深いものです。それなのに、今や、シュミレーションではなく、ネタニヤフにイラン攻撃の青信号を

⁵ 2023年の10月位7日のハマスの奇襲作戦以前、バイデン政権はサウジとイスラエルの間の国交正常化や平和協定を含む大規模協定を目指していたが、10・7とイスラエルのガザとレバノンへの攻撃に対し、サウジがパレスチナ国樹立要求などにより、交渉は頓挫した。今回の米・サウジ防衛協定はイスラエルとの国交正常化を含む大規模協定とは別個のものだとも言われている。

⁶ 2022年バイデンはカタールを非 NATO 同盟国と指定、2023年9月米とバーレーンは包括的安全保障統合繁栄協定に調印、2024年バイデンはアラブ首長国連邦を主要防衛パートナーに指定した。

出そうとしているのです。ネタニヤフに緊張を盛り上げさせ、我々米国がいわゆる致命的打撃 (killer blow)で追い打ちをかけるという寸法なんです。しかし、致命的打撃なんかありません。

今述べたようなシナリオが、ひょっとしたら来年1月のトランプ大統領就任までに、起きるかもしれません。バイデンはそのような置き土産をトランプに残すかもしれません。つまり、イスラエルに先にはじかせて、その後米国が助けに入るというシナリオは正式決定はしていないが、ずっとくすぶっているのです。今から来年1月までの間に思わぬ展開として起きる可能性があります。

ジェイ：そうなればトランプは大喜びするでしょう。自分が悪者にならずに、バイデンを悪者にして、自分のやりたいことができるからです。マーク・ミリー（統合参謀本部議長）は、トランプは2021年バイデンに政権を明け渡すのをクーデターで阻止したかったが、イランとの開戦も望んでいたと言っています。トランプを取り巻く極右勢力はイランとの戦争を望んでいます。ただ、バイデンが対イラン戦争を自分のレガシーとして残したがっているかどうかは、私には分かりません。

ウィルカーソン：ネタニヤフが米国にやらせたいと常に思っていることをやらせるために先陣を切ったりすれば、どうしようもないでしょう。

ジェイ：ネタニヤフはすでにそのことをトランプに話したかもしれませんね。もしトランプがやれと言ったとした、バイデンの了解を得る必要はないですからね。バイデンを追い詰めることができます。

ウィルカーソン：ゼレンスキーもトランプと話しました。具体的にははっきりしませんが、少なくとも「どうか私の勝利の計画を支持してください」というようなメッセージを渡したと聞いています。

ジェイ：ウクライナ戦争では、ピーター・ティールの会社バランティア・テクノロジーと、イーロン・マスクの会社スターリンクが大儲けしています。トランプ陣営の億万長者はウクライナ戦争で金儲けしています。もっとも、彼らの関心はウクライナよりも中国でしょうが。

ウィルカーソン：トランプが大統領になったら少なくともウクライナ戦争はなくなるだろうという私の同胞が多かったのですが、本当にそうなるのか、私には分かりません。

ジェイ：昔、オバマが選ばれたとき、「オバマならイランに関してもっと分別のある対応をするだろう」と言いました。その通り、彼はイランと核合意（包括的共同作業計画）をまとめあげました。トランプ政権に関しては一点を除いては何の希望も持っていません。その一点とは、あなたの同胞たちの言う通り、トランプの金惜しみでウクライナ戦争が終わることです。ロシアのウクライナ東部占領と本当に戦いたい人民がいるなら、欧米の兵器で皆殺しの全面戦争をしなくても、他に方法はいくらでもあります。ゼネストもあります。人民が本当に望むならいろいろな方法があります。ウクライナ戦争が終わるかもしれないということ以外に関しては、トランプ政権には何の期待もしていません。

話を元にもどしましょう。選挙結果に関する話へ戻しましょう。選挙結果にびっくりし、圧倒され、自信をなくし、すっかり落ち込んだ人々、私はその理由は確かに理解できますが、そういう人びとも2〜3日休暇を取り、また仕事に戻っています。それよりも、今こそハリスが依存した親民主党ウォール街の支配から脱皮するチャンスだと思うのです。バイデンもウォール街金融資本に依存していましたが、ハリスと比べれば、まだ労組依存傾向があった。バイデン政権には気候問題担当のスタッフもいたし、サンダース支持派も入っていました。ハリスの選挙運動ではそういう進歩的要素がすべて無視されました。しかし、この歴史的敗北とこれから民主党にとって非常に厳しい状況になることがわかっているのです、そこにチャンスがあるのです。

トランプは勝利演説で、「約束をした、約束を守る」と言いました。約束の一つは移民の集団国外追放です。左翼害虫の駆除も約束の一つです。だから、これから始まるトランプ政治は、共和党による上院・下院支配を背景に展開する低級な政治と侮らない方がいいでしょう。警戒し、抵抗すべきです。

トランプが僅差で勝利したミシガン州では、州政治としては、議会は民主党が多数で、知事は中道または中道左派です。UAWという大労組も存在します。反トランプ勢力が健在です。これを機に立て直しを図り、組織的に再編成し、反トランプ大衆運動をやってはどうでしょう。カルフォルニア州、ニューヨーク州、イリノイ州のトランプに投票しなかった人々も草の根の闘いの準備をすべきです。とりわけ大都市の人々は立ち上がる条件が整っています。選挙のとき、「トランプを大統領にしよう。そうすれば矛盾がはっきりして、大衆闘争の機会が生じる」と主張した人々がいました。そんなことでトランプに投票するのはどうかと思いましたが、その論理に真実の一部がある

ことは否定できません。トランプ勝利の動揺感を克服し、それをより良い世界を作るチャンスとして、私たちは組織的に行動しなければなりません。

もう一つ言いたいのは、この反トランプ抵抗運動、世直し大衆運動は、民主党枠内ではできないということです。とりわけ右翼民主党と訣別した、大衆が自ら計画し、自ら決定する、独立的政治運動が必要です。

ウィルカーソン：あなたの意見に反対するつもりはありません。トランプ勝利を世直し運動の機会にするためには、民主党の蘇生も必要でしょう。サンダースなどの進歩派を形だけ含むというおぎなりなものでない大改革が必要になるでしょう。しかし、どうも私はペシズムとシニシズムになりがちなのですが、世直し運動というまとまったものになるより、世の中が騒乱状態になるのではないかと恐れるのです。トランプはそれを待ち構えているでしょう。彼は司法省を行政執行機関に変えると言いました。司法長官は国民の司法長官でなく、自分の部下の司法長官であるべきと、公然と言ったことがあります。国民がトランプのすることに反対すると、FBI など国家の弾圧機関を使って潰しにかかるでしょう。世の中は騒乱状態になります。

例えば、就任後半年内に合法移民だろうが不法移民だろうが、プエルトリコ人狩りを始めて、国外退去させるという暴挙に出ても、私は驚きません。彼はまず扱いやすい移民を選んで国外退去させます。選挙で彼が公約したことを実行するのです。そのため、彼がいつもおびえている FBI や司法省などを自分の手足にするでしょう。すでに事実上最高裁を部下にしました。議会も彼の手足です。公権力の私物化を通じて、彼は選挙中に公約した移民排斥に乗り出します。プエルトリコ人排斥に成功すれば、たとえ部分的成功でも、次の移民グループの排斥に移ります。国中が大混乱になります。最高級の混乱です。

ジェイ：あなたの言う通りになるかもしれません。騒乱状態になったら、大都市の人々は反トランプです。僅差で大統領選挙に勝ったからといって、全部が親トランプになったわけではありません。

ウィルカーソン：ニューヨークがそうで、以前にも大暴動がありました。

ジェイ：極右の神学や宗教的アジェンダは、大都市では機能しません。移民の大量国外追放についても、株式会社米国はいつも不法移民を必要としているのです。米国資本にとって移民が賃金の沈め石なのです。だから、トランプの大量国外追放はそう簡単に運ばないと思いますが、トランプに反対票を入れた州で強行するかもしれません。

ウィルカーソン：たぶん、約策を履行しているのだとして、何人かの移民を目立つように強制送還をやり、それがうまくゆくと、今度は本格的な大量国外追放に着手するでしょう。

ジェイ：進歩派や中道左派の民主党が州政府を持っているところでは、人々は銃を持っているので、騒乱になるかもしれません。

ウィルカーソン：以前中央政府と対立した州で流血の騒乱が起きたことがあります。各州が結束するかどうかは関係ありません。州によっては強力な民兵集団や州兵がいます。

ジェイ：民兵がどのように考えているか、私は知りませんが、州政府指導者や議会が反トランプで、トランプを取り巻く極右神学を嫌悪する州では、そこに抵抗源があることを理解し、活用して、2年先の中間選挙に力を入れる道もあります。

ウィルカーソン：もし、中間選挙があるとすればね。

ジェイ：それなんです。トランプは選挙運動で「親愛なるクリスチャン。私はあなた方を愛している。この11月選挙では私に投票してくれ。4年先にはもう投票なんかしなくてよい。我々がきちんとした体制を作るから、もう投票する必要はなくなる」と、奇妙な約束をしました。

ウィルカーソン：その通りです。

ジェイ：私はこれを重大に考えています。前のアナリシス・ニュース「トランプの不敬同盟」で私はそのことを指摘しました。ピーター・ティールなどの極右億万長者は極右カトリック教会、極右福音主義のオプス・デイ会 (Opus Dei) と繋がっています。彼らは4年後の選挙を望んでいません。君主国を望んでいるのです。TV パーソナリティのマーク・キューバンはイーロン・マスクなどの億万長者たちは君主国を望んでいると言いました。

ウィルカーソン：それに疑いはありません。

ジェイ：落ち込んでいるときではありません。トランプ台頭を大きな闘争を始める新段階だと考えるべきです。人々は学習し、同僚や友人や家族に気候変動の話をし、トランプの強欲をキリスト教で包み込む偽善を話し合うべきです。人をサイロの中に閉じ込めるサイロ化メディアを乗り越えなければなりません。トランプに投票した人々はトランプのメッセージを強化するサイロ化メディアに影響されました。メディア支配を抜け出す道は一緒に生活

している人と話し、組合で語り合い、教会で話し合い、街頭へ出て他人と話しあい、組織的に戸別訪問して、議論を盛り上げることです。

私はミシガン州の友人と戸別訪問に関する教室を開こうかと話し合いました。こういう問題で他人と話し合う術を再学習する必要があると思ったからです。大統領選挙のとき運動家たちは戸別訪問をやったけれど、共和党に投票するかも知れない人を訪問して話し合うことをしなかった。わざわざ訪問してお願いしなくても民主党に投票する人のところへ行くだけで、未知の人を説得するような活動をしませんでした。選挙運動とは説得運動なのに、それをしなかったのです。これは当然で、ハリスには人々を説得しなければならないような重大問題を掲げなかったからです。

ウィルカーソン：独裁政治が最初にするのはメディアの支配です。ユダヤ系大富豪のシェルドン・アデルソンがネタニヤフにやってやったことを思い出してごらんください。彼はテルアビブの主要新聞のほとんどを買収して、ネタニヤフの代弁者になりました。これに抵抗してメディアの独立性を保ったのは唯一ハアレッツだけです。同じようなことが米国でも、イスラエルほど極端ではないにしても、起きています。だから、あなたのおっしゃる通り、草の根レベルの会話と交流とメッセージ伝達が大切です。

米国では、やはり連邦制度の力が強いんです。リンカーン共和党の州とそうではない州が争い、数年後に内戦（南北戦争）に発展した1859～1860年を再現するのは、困難でしょう。政治的・組織的にそうなれば国中がひっくり返る騒乱になりますが、たぶんそういうことは起きないでしょう。当時と比べれば事情が複雑で、人々がバラバラに断片化していますので、そんな大規模な事件は起きないでしょう。

ジェイ：きっかけがあれば、例えばミシガン州などでは、起きる可能性があります。

ウィルカーソン：可能性としてはね。

ジェイ：毛沢東は多くの点で間違いを犯しましたが、正しいことも行いました。政治権力は銃身から生まれると言ったのは正しかった。

ウィルカーソン：彼は核兵器を呪うべきものと言ったことも、正しかった。

ジェイ：ええ。もう一つあります。「小さな火花から大きな野火となる」という言葉です。どこかの州できっかけをつかめば、それが野火のように広がるかもしれません。連邦や中央レベルはこしばらくはだめでしょう。中間選挙もあまり期待できません。中間選挙でどちらかの議会を獲得できるかもしれませんが、本当の突破口になるのは州レベルの運動です。

ウィルカーソン：中間選挙で上院か下院で多数派になれるなら、州レベルの闘い構築は必要ないのではないですか。

ジェイ：確かにそうかもしれませんが、しかし、大きな州への圧力に成ると思います。皆さんがご存じのように、テキサス州やオクラホマ州のような化石燃料でこの国に富をもたらす州には大都市があります。大都市の住民は概して反トランプです。

ウィルカーソン：あなたは都市とたぶん田園地区の間を区分していますね。郊外は都市の一部ですので農村アメリカと呼んだ方がよいでしょう。農村アメリカは、必ずしも経済や知的な理由だけでなく、様々な理由でトランプに投票します。あきらかに大都市アメリカと対立しています。大都市は民主党の保護地として、富豪は嫌います。共和党支持の富豪のことです。確かに国内騒乱のタネはあります。

ジェイ：しかし、我々は大都市にだけこだわってはいけません。進歩派は農村地区にも出かけて話し合うべきです。

ウィルカーソン：撃たれますよ。

ジェイ：そうとは限らないでしょう。アナリシス・ニュースを観ている人は農村アメリカにもかなりいます。私に届くEメールの20～25%は農村アメリカからです。

ウィルカーソン：そんなにはっきりしていますか。

ジェイ：農村アメリカにも進歩派がいます。もっとも同じことは福音主義派にも言えます。少なくとも福音派の20～25%が進歩派です。

ウィルカーソン：筋金入りの保守派で共和党支持派もいます。大都市にもトランプ支持者がいるでしょう。

ジェイ：ええ、確かにそうです。中間選挙と大衆運動構築に関して、他にもするべきことがあります。今回の選挙に関しての正確な数字はまだ分かりませんが、一般に30～40%の人々が選挙で投票していません。たいいてい

は極貧世帯の人々やワーキング・プアです。民主党は彼らを選挙民登録させる努力していません。彼らはいわば眠れる巨人で、民主党は彼らを目覚めさせるのを怖がっているのです。彼らが目覚めて政治に参加すれば、民主党はその性格を大変化しなければなりません。しかし、私たちは彼らに働きかけ、語りかけ、話しを聞き、できれば組織化し、選挙や運動に参加させなければなりません。

ウィルカーソン：トランプはそういう人々を非国民として追放するでしょう。

ジェイ：でも、その人たちの多くは米国生まれです。

ウィルカーソン：バージニア州でグレン・ヤンキン知事が選挙ぎりぎりのときにそれをやりました。選挙ギリギリのときだったので、私は裁判所が止めると思っていました。グリーンカードがないので投票権がないと見做された人々を投票から排除したのです。しかし、グリーンカード申請中とか、はぼ市民として認可される途中にあったり、認可されている人々もいたのですが、その人たちには「まあ、仮投票しなさい。後に国民資格があるかどうかを調べる」とお茶を濁した。バージニア州ではそういうことがあったのです。

ジェイ：そろそろ時間です。私たちは多くの点で意見が一致しました。私はこのテーマ「絶望を超えて組織的に闘おう」を今後も続けてゆくつもりです。最後に、気候変動の緊急性、核兵器に関する緊急性、神権政治的な極右独裁の緊急性について一言お願いします。

ウィルカーソン：あなたの議論は理性的ですね。昨晚、そういう緊急性の問題でピンク・コードのメディア・ベンジャミンとアン・ライトと議論したばかりです。そこで一致したのは、闘うことです。戦略を立て、賢く、決してへまをしないように、闘うことです。

ジェイ：あなたとは奇妙な関係ですね。あなたはベトナム戦争に志願した。私はベトナム戦争に反対した。そして、現在、同じ位置に立っています。

ウィルカーソン：ええ。でも、あなたの方が賢明でしたよ。

ジェイ：私は運よくベトナム戦争に反対する家庭で育ちました。それは完全に偶然の産物です。

ウィルカーソン：私の方は代々軍務で奉仕する家庭で育ちました。私の父は第二次大戦に参加していますし、私の義父もそうです。彼らの親たちも軍に奉職していました。それが当たり前でした。

ジェイ：何をすべきかということについて私たちが話し合えるということは、とても希望に満ちています。面白いですね。この番組を観て、私たちが何をすべきか、絶望を乗り越えて組織化するために必要なことについて、この話し合いに参加したい人は、是非アナリス・ニュースに連絡してください。もしかしたら、皆さんが発言できるようにライブ中継するかもしれない。どのように進めたいか、あるいは私たちアナリスがこのプロセスをどのように手助けできるか、お知らせください。ラリー、今日はどうもありがとう。

ウィルカーソン：こちらこそお招きいただき、ありがとう、ポール。

ジェイ：皆さん、アナリス・ニュースをご覧いただき、どうもありがとう。寄付ボタンのことを忘れないでください。私たちは無償で続けることはできません。よろしく。それではまた。